

2022年度 自主事業の紹介



武豊町民会館 館長
竹本 義明

新型コロナウイルスの影響により、文化芸術が大きな打撃を受け、文化施設の中でも劇場・ホールで予定されていた事業が延期や中止となっている。客席収容率を抑え、入場者を制限して事業を実施してきたが、今年度になりようやく制限を緩和して公演が実施できるようになった。

実際の舞台上にも変化が出ていて、舞台公演に従事する人数の削減や配置の変更により、感染リスクの軽減を図る取り組みも行われているようだ。それに伴い新しい舞台の形が出てきている。

従来の舞台は、多目的劇場・ホールが一般的で、どのような実演にも対応する形が設置されていた。その後、目的別劇場・ホールが建設され、公演に対する満足度の度合いが高まったようだ。

公演の種類により、音響や残響、視覚的な要素が重要となり、劇場・ホールの形状も多様な形が出現している。

文化芸術は、音楽、演劇、舞踊そして映画などを指すが、最近ではアニメーションやマンガが含まれ、生活様式や、価値観の変化により、舞台も変化が求められているようだ。舞台芸術は、演劇、歌舞伎、ミュージカルなど、舞台や空間で行われる芸術を総称するが、最近は舞台美術、音響、そして照明の役割がステージを支える大きな要素となっている。

そこでは、音楽的要素はもちろんだが、造形的、言語的要素も必要とされるようになってきている。舞台芸術は、空間

と時間を観客と共有する中で成立すると言われるが、空間芸術は絵画、イラストレーション、建築、彫刻、写真であり、時間芸術は音楽、映画、演劇、そしてアニメーション、ゲームとされている。

それぞれ独自に公演を行っていたものが、最近は融合し複合的な公演が出現している。武豊町民会館においても、3月に音楽とサーカスによる「クロワッサンサーカス」が行われ、5月には音楽とパントマイムの「らふいゆ れふいゆ」公演が予定されている。

その他の公演においても専門分野の内容に加え、プラスアルファによる楽しみを見つけ出すことができるかもしれない。芸術と科学のハーモニー事業は「造形アート」「サイエンストーク」「アフレコ体験」「現代アート」「アニメーション制作」など興味深い事業が予定されている。

そして、今年度は「武豊春の音楽祭2023」が予定されており、時代を先取りした楽しい事業を提供できると考えている。

